

令和5年度自己評価表

中長期ビジョン (学校ビジョン)				今年度の重点目標			
1 個々の持つ個性、適性、可能性を最大限に開花させる 2 自主・自律の精神と、他者への思いやりを持った心の育成と創造性豊かな人格を形成する 3 地域の特性を生かして成長し、確かな知識と技術を身につけ未来を切り開く人間を育成する				1 基本的生活習慣の確立 2 基礎学力の向上		3 ふるさとキャリア教育の推進	5 業務改善の取組
年 度 当 初				評 価 結 果 (9) 月			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 基本的生活習慣の確立	規律ある生活習慣の確立	■家庭連絡を適宜行い家庭と連携し、頭髪服装指導に努めた。生徒が主体的に守れるように指導回数を変更したが、一部の生徒は守れていない ■問題行動については、各学年・分掌と連携して指導・対応したが、繰り返す生徒があった ■遅刻者数は昨年度と比較して40%減少している ■「分離礼」については、定着しつつある。「静止礼」の定着が不十分な面がある	■生徒が主体的に、基本的生活習慣の確立に取り組める ■問題行動を繰り返す生徒が減少する ■遅刻者数を昨年度より10%減少させる ■「分離礼」「静止礼」を習慣化する	■「進路にふさわしい頭髪・服装」について理解させ、自ら意識して身形を整えられるように粘り強く指導する ■問題行動には、問題点をしっかりと理解させ、保護者とも連携し繰り返さないように指導する ■遅刻指導のルールを職員間で確認し、引き続き粘り強く取り組む ■授業での「分離礼」「静止礼」を継続し、日頃から「自ら挨拶をする」習慣が身につくよう指導する	■頭髪服装指導の不合格者は、1・2年生は例年並みであるが、3年生の不合格者数がかなり多い。特にピアス指導が増えている。 ■問題行動件数も多く、重大な事案も数件あった。各分掌と連携して対応したが、学校生活は落ち着いていない。規範意識が育っていない生徒が目立つ ■遅刻生徒数は、昨年度を上回っている状況であり、特定の生徒が遅刻を続けている ■「分離礼」「静止礼」が定着しつつあるクラスもあるが、全体では徹底できていない	B	■時間厳守や頭髪服装については、進路実現にもつながるので、粘り強く指導する。分掌、保護者との連携を図る ■職員全体で継続して指導を行う ■生徒指導の懲戒処分や教育的指導の手順についてフローチャートを改めて作成し、全職員への共有を図った ■引き続き、授業での「分離礼」「静止礼」を継続し、日頃から「自ら挨拶をする」習慣が身につくよう指導する
	豊かな心の育成と健やかな身体づくり	■月1回の学年会や各分掌と適宜情報交換を行い、生徒情報が共有され、生徒理解に努めている ■教育支援が必要な生徒については、分掌の枠を越え連携し、一丸となって生徒対応をしている ■朝読書の達成率が全体では88.9%と目標には達しなかったが、第2学年は97.8%と成果が現れている ■各種人権に関する実態調査(全学年)を実施し、その結果を踏まえ、いじめ防止LHR等を行っている ■コロナ禍に対応しリモートでの開催も含め、各種の生徒会行事を実施した	■全教職員が連携し、生徒情報の共有と生徒理解に努め、きめ細かな指導を行う ■ホームルーム活動を通して、円滑な友人関係を育成する ■朝読書の達成率を全学年96%を目指す ■人権感覚を身につけ、いじめのない学校づくりを行う ■部活動も含め生徒会活動を充実させ、学校生活での満足度をアップする	■職員間での連携を密にし、生徒情報を共有し、問題の早期発見、早期解決に努める ■いじめアンケートやハイパーQUを最大限に活用し、面談や情報共有を行い生徒理解に努める ■朝読書は学校全体で取り組み、その有用性を伝えていく ■職員間での人権意識と共通理解を高めながら、全教員で連携し、生徒へ人権意識の向上に向けての指導に取り組む ■伝統の継承と進化を引き続き検討し、魅力あるものを追求していく	■学年会や教科担当者会を通して、生徒情報を共有し、職員間での連携、共通理解が迅速にできている ■個々の生徒の状況に応じて、適宜面談をし、相談室、保健室、SC等と他分掌、外部機関が連携し、職員全体がチームとして迅速な対応ができている ■6月の朝読実態調査の結果は92.3%であった。(前年度93.4%)学年により増減があるが、副担任の先生を中心に今後も声かけ等を粘り強く行う。(図) ■人権意識調査(新入生)・いじめ実態調査(全学年)を実施し、その結果をふまえ、いじめ防止の具体的な取り組みを学校全体として行った ■生徒会が学校祭時のルール見直し等に取り組んだ	B	■引き続き学年団や各分掌との連携を密にし、生徒の情報収集を図るとともに迅速に対応する ■ハイパーQUに関しては10月にも実施し、支援を要する生徒の適切な支援の方法を検討する ■今後も読書活動の推進をしていくとともに、各教科と連携をとり、図書館利用を促進する。また生徒参加の店頭読書を通じて、生徒のニーズにあった蔵書内容にしてい ■人権教育LHRの内容的な充実を、各学年とも相談し図っていく ■生徒の意見も取り入れながら、学校生活での満足度を上げられるよう支援する
2 基礎学力の向上	基礎基本を大切にし、生徒が主体的に参加する授業づくり	■マナトレに関しては、年間計画に合わせ毎週意欲的に取り組み、基礎学力が徐々に向上している ■生徒が主体となる授業作りに向け、指導者のICT機器の活用方法の研修に取り組んでいる	■生徒が主体的に学習に取り組む授業を推進するとともに、学びに向かう姿勢を育成する ■マナトレや補習等を充実し、基礎学力の定着と向上に努める ■ICT活用の校内研修や研究授業を実施し、授業力の向上を図る	■今後もマナトレを継続して取り組み、基礎学力の向上に努めるとともに、効果の検証を行い、生徒自身が効果を実感できるよう、今後の実施の在り方を検討していく ■生徒一人一ノ端末導入に対応し、生徒が主体となる学びやすい授業作りに向け、ICT機器の活用を更に推進する ■生徒の学力向上につながる教員研修等を継続的に受講をする	■マナトレに関しては計画通り進め基礎学力の定着をはかった。進路実現に向けて、一般常識やSPI対策や、国語科に依頼し、作文・小論文指導も継続して行っている ■授業や補習、クラス連絡などで積極的にICT危機を活用している ■職員のICT研修会を定期的に行い授業力の向上を図っている	B	■マナトレの効果を検証し、引き続き基礎基本の定着を科職員が協力して取組んでいく ■ICTの活用を意識的に行っていく ■ICT機器の使用について、複数教員で連携して指導する
	専門的資格取得の促進と魅力ある学科づくり	■地域に貢献できる人材育成のために、専門的な知識・技術の習得に努めている ■4級海技士(航海)4名合格、1級小型船舶操縦士10名 スーパー水産農林業士2名取得 ■自動車整備士登録試験、9名全員合格。4年連続合格率100%達成 ■第1種電気工事士4名合格、第2種電気工事士12名合格 ■福祉科介護福祉士国家資格16名合格。11年連続合格率100%達成	■時代にマッチした専門教育を深化化する ■将来のスペシャリストの育成を目指す ■資格・検定試験の合格率を向上する ■各科の連携を密にし、総合技術フェア・課題研究発表会での学習成果発表会を充実させる	■専門技術者による講義や実技指導を通して、産業界の実態にあった授業を実施し、専門科目への学習意欲を引き出す ■専門学科の深い学びが高度な資格取得につながり、将来の職業選択にもつながることを早い段階から理解させる ■資格・検定試験に合格することで、生徒の自己肯定感を高めるため、引き続き講習を継続的にに行い、100%合格を目指すよう取り組んでいく	■多くの社会人講師の授業を実践できている。また、実習施設との連携を行い、効果的な学習指導が実施できている ■資格試験対策とし、積極的に補習等を開催し指導を進めている	A	■引き続き社会人講師、実習施設との連携を行い、効果的な学習指導を行う ■自信を付けさせることで、生徒の自己肯定感を養っていくために、講習会を継続し100%合格を目指す
3 ふるさとキャリア教育の推進	キャリア教育の充実	■進学希望者が増え、多様な受験形態・時期に対応し、受験指導を行っている ■キャリアパスポートは、学期の振り返りや課題研究の取組等の記入ができている ■すべての科でインターンシップを実施し、経験値の向上につなげた ■就職者の1次内定者が84%であった 学科の専門に関連した企業への就職84.4%、進学64.6% ■保護者と生徒を対象とした「内航船員の仕事説明会」を実施した	■進路指導計画に基づいた指導を徹底する ■キャリアパスポートを活用した生徒の自己評価と目標修正等の改善を支援し、個性を伸ばす指導を行う ■インターンシップにより職業観・勤労観を育成する ■進路ガイダンス、保護者説明会の充実を図る	■生徒状況や社会情勢に応じ、適切な進路指導に心掛ける。また、進学についても入試の多様化・長期化に対応し、指導の研究を進める ■キャリアパスポートの見直しを更に推進し、ふるさとキャリア教育の充実を図り、生徒の進路意識の向上につなげる ■適切な時期での体験的学習活動を実施し、進路選択に活かすとともに、企業との連携を深め、個々の生徒に合ったきめ細かな指導・体験へとつなげる	■進路指導の年間計画に基づき、学年、教科と連携した指導を行った ■キャリアパスポートは、昨年度の反省点から内容を大幅に変更したが、改善すべき事項が残っており、検討が必要である ■インターンシップは7月に食品・ビジネス科、機械科、電気電子科、福祉科が実施し、海洋科は2学期に実施予定である	B	■1、2年生対象のキャリアセミナーと進学ガイダンスは3学期に実施する ■キャリアパスポートの記形式を検討しなおし、生徒も教員も活用しやすい形を作る ■キャリアパスポートの内容を踏まえて、目標や実施後どんな力を身につけたいかを考えさせたいうえで、キャリアパスポートへの記入ができるように事前指導を行う
	地域連携と地域貢献	■総合技術フェアは実施方法の工夫で3年ぶりに来場者を招いて実施ができ、生徒にとってもよい学習の場となり、地域貢献活動にもつながった ■学校独自事業については、地域や地元企業と連携し実施できたが、海洋科の国際航海など、一部の事業で実施できないものもあった ■地域でのボランティア活動や、施設と連携した活動などできる範囲で実施した	■地域連携・地域交流活動を通して、生徒に自信を持たせ経験値を上げ、役立ち感、有用感を育む ■地域基幹産業の発展に寄与できる人材を育成する ■地域と連携したボランティア活動・実習等を実施する	■今後も地域や学校、生徒にとって有用なイベントには積極的に参加し、地域連携をさらに深め、地域貢献に役立つ活動を継続的に行っていく ■ボランティア活動を推進し、自主的に活動できる力を養う ■学校運営協議会を活用した地域連携の推進を行う	■中野漁漁村市など各種イベントに参加した。地域に向けて総合技術フェアを10月14日に実施予定である ■ボランティア要請が爆発的に増え、対応できない場合が出てきた。ボランティアありきの企画も増えてきている	B	■引き続き、地域や学校、各科にとって有益なイベントには積極的に参加し、実習施設、ボランティア依頼施設と連携しながら地域貢献に役立つ活動を行う
4 地域との連携と情報発信	学校教育活動の情報発信	■実習や行事等、マスコミへの情報提供やホームページ掲載を迅速に行っている ■公式Instagramを6月下旬に開設し、タイムリーな情報発信を行った 使い方については周知の徹底ができなかった部分があった	■特色ある教育活動の公表・発信を通して、学校への理解を深める ■ホームページ・Instagram等による情報発信の充実を図る	■生徒・保護者・マスコミ等、方法や機会を工夫し、引き続き、的確な情報発信に努める。Instagramについては多方面で活用できるよう入力方法を検討する	■公式SNS・学校webページにより、学校行事や各科の校内外等での取り組みを発信できている。また、マスコミに情報を提供することにより、各メディアにも多く取り上げられている ■中学校での高校説明会で、各科の生徒が作成した動画を活用し好評を得ている	B	■引き続き、マスコミへの情報提供やSNS、webページによるな情報発信に努める。そのために行事や実習などの写真・動画などの記録を残し、HDなどで共有できるようにする
	学校業務の精選と効率化	■職員会議資料を職員の端末での配信とし、準備時間の短縮・会議の効率化を図った ■朝の打ち合わせ時間を効果的に活用し、学年会の効率化を図った	■会議・委員会の業務を見直し、整理、統廃合を図る ■各会議は内容を精選し、時間短縮に努める	■会議資料を事前に配布し、内容等を把握する ■協議、連絡・報告は、前もって関係分掌と話し合い、必要最小限にとどめる	■校内情報共有データベースを活用したり、資料を事前に配布したりして、会議時間の短縮と会議等の省略を図った	B	■継続して取り組むが、効率化を目指すことだけが目的とならないように注意する
5 業務改善の取組	長時間勤務者の解消	■「境港総合技術高校部活動に係る活動方針」に定めた休養日、活動時間を遵守した部活動を行っている ■時間外勤務を月45時間以内、年360時間以内とすることが、ほとんどできている	■時間外業務を月45時間以内とする ■時間外業務を年360時間以内とする	■引き続き、定めた休養日、活動時間を遵守した部活動を行う ■業務内容を見直すとともに、時間外業務についての意識を高め、各自適切な時間管理に努める	■部活・資格指導で徹底できない時もある(休日の大会・受験など) ■分掌や時期によって時間外業務が増えることがある ■夏季休業中の「街頭補導」について、見直しが必要	B	■引き続き、活動方針に沿った部活動の実施、業務内容・分担の見直しを行う ■西部地区指導部連盟や市指導部連盟の連絡会で協議していく